

# 長引く症状・・・それって結核かも？

～高齢者の体に眠る結核菌～

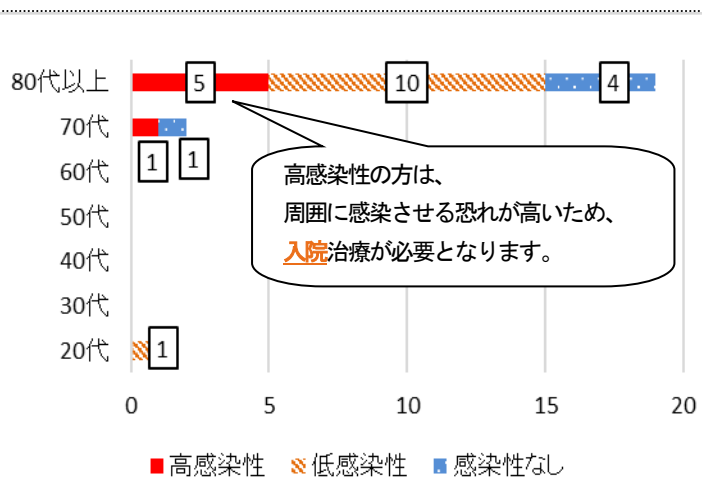
## 結核は、高齢者に多い!

- ・鳥取県中部管内では、毎年5人前後の方が結核を発病しており、8割以上が80歳以上の高齢者です。

### 結核とは？

- 空気感染**し、感染者のうち発病するのは1～2割。
- 高齢者は、若い頃に感染し体内に結核菌をもっている方も多く、免疫低下によって発病するリスクが高い。
- 診断方法は、**胸部X（エックス）線検査**と、**菌検査（喀痰等）**。  
感染と発病は違う！
- 早期発見**できれば、周囲への感染を予防でき、**外来治療が可能**。
- 服薬治療**で治る。

### 管内の患者発見状況(令和2～5年:22名)



## 早期発見が重要!



せき・たん



微熱

倦怠感

元気がない



食欲低下

体重減少

①このような症状が2週間以上続いたら、

**医療機関を受診し、胸部X（エックス）線検査を!**



②**年1回**は必ず**定期健診（胸部X線検査）**を受けましょう!



# 事例紹介

## 事例①

### 受診の遅れ

- ◆独居。
- ◆診断半月前より、食欲低下、歩行困難があったが、我慢し受診されず。
- ◆診断1週間前に救急搬送され入院→肺結核の診断。

いずれも他者へ感染の恐れがあり、入院治療となった事例

## 事例②

### 診断の遅れ

- ◆グループホーム入所。
- ◆微熱と軽い咳で受診。気管支炎の診断となる。抗生剤で症状改善。(それ以降、微熱が時々、咳はなし。)
- ◆1か月後、別疾患で他院に入院。  
→胸部X線検査から結核を疑われ、菌検査により、肺結核の診断。



高齢者は、呼吸器症状が乏しいケースも多い。日々の健康観察・有症状時の早期受診が大切。

胸部X線検査で陰影があった場合は、結核も疑い、菌検査をしてもらうことが大切。

## 事例③

### 診断の遅れ

- ◆グループホーム入所。
- ◆診断4か月前に肺炎で入院。→抗生剤で症状改善し退院。  
(この時点で、結核診断時と同様の肺陰影あり。菌検査なし。)
- ◆診断半月前、発熱・食事がとれないため再入院。  
→肺結核と診断され、2日後に結核死亡。



発見が遅れた場合、死亡する事例も。

## 事例④

- ◆住民健診(胸部X線検査)で要精密となり、医療機関受診。  
→肺結核の診断。症状なし。
- ◆菌検査の結果、他者へ感染させる可能性は低いと、外来治療。

早期発見!



症状がなくても、結核の診断となる場合もある。定期的な健診が大切。

- ◆施設職員の方が、職場健診で要精密となったが受診されず、発病の発見が遅れ、利用者さんへ感染が拡大した事例も。

◎健診等で、**要精密**となった場合は、**必ず早期受診**しましょう!!

※ご要望に応じて、**職場研修会**へ伺わせていただきます。お気軽にご相談ください!

【お問い合わせ】中部総合事務所 倉吉保健所 医薬・感染症対策課 難病・感染症対策担当  
電話 0858-23-3145 FAX0858-23-4803